



2/12(水)

## 社会科学におけるデータサイエンスの活用法 —統計調査データから社会現象を読み解く—

社会科学は、一言にいえば社会における人びとの振る舞いを実証的方法によって体系的に研究する学問である。人と人の関係から生み出された諸社会現象を集団の意識・行動と見なし、その法則の発見を焦点としているためには、各種データの活用が不可欠である。本ワークショップでは、計量社会科学研究の特徴、社会調査の効用、調査データの分析方法を概観すると同時に、価値観や環境意識などの調査事例を通じて、データサイエンスの活用法について解説する。



### 鄭躍軍 教授

同志社大学文化情報学部教授  
／社会調査研究センター長

専門は統計科学、社会調査論、計量社会科学。社会調査理論と調査データ解析方法の構築とともに、価値観、消費者行動、意識の国際比較調査など、幅広い研究活動に取り組んでいます。『データサイエンス入門』『社会調査データ解析』『社会科学系の統計学』『統計調査法—社会科学のためのデータサイエンス』など著書多数。

- 13:00~14:30 第1部 講演 (オンライン開催)
- 15:00~18:00 第2部 演習 (講義室128+オンライン)
- 15:00~16:25 演習Ⅰ:これまでの復習と自律的な学習
- 16:30~18:00 演習Ⅱ:分析ソフトMTMineRの使い方
- \*演習は、Ⅰのみ、Ⅱのみの参加も可

### お気軽にご参加ください

- 対象：データ分析に関心のある方、初心者の方も大歓迎です
- 参加費無料・入退室自由
- 事前申し込み：不要
- 対面で参加される場合は、ご自分のPC(Windows/Mac)をご持参ください
- Zoomリンク, 配布資料, 配信動画(後日)など, QRコード/URLでご確認ください

